

## 1. 本研究の経過

### (1) 2009年度の科学研究費の繰り越し

2009年度までの科学研究費（基盤研究 [A]、タイトル「アジア太平洋地域の環境モニタリングにむけた地図・空中写真・気象観測資料の集成」、交付額 8,100 千円）の一部（600 千円）を繰り越し、戦中期に各種資料により海外研究をおこなった京都大学の地政学グループの活動に関連する資料を 2010 年度に刊行することとした。

### (2) 科学研究費の不採択

本研究の継続にむけて、新たな研究の申請（基盤研究 [A]、タイトル「アジア太平洋地域について近代日本が作製した地域情報の評価と活用に関する調査研究」、2010 年度の申請額 11,136 千円）は不採択となった。なお、その後の審査結果の開示によれば、この申請の「おおよその順位」は B（上位 21～51%）であった。また、評定要素ごとの結果の平均は 3.00（採択課題の平均値は 3.22）であった。

### (3) 資料調査

#### 海外調査

2010年9月2日～13日、ワシントンのアメリカ議会図書館で、小林茂は大阪大学文学研究科の大学院生、同文学部の学生とともに、同図書館所蔵の旅順要塞砲台図について実習をかねた調査をおこなった（本報告の藤森ほか「アメリカ議会図書館蔵、手描き旅順要塞砲台図および5千分の1地形図—解説と目録—」を参照）。この調査では旅順要塞砲台図一点一点につきタイトル・サイズ・作製者等につき書誌的データを記録するとともに、写真撮影もおこなった（写真1、写真2）。

#### 国内調査

- ① 2010年3月29日（月）、30日（火）、国立国会図書館で小林茂は「広東省全図」など清国沿海各省図の調査をおこなった。
- ② 2010年5月21日（金）、国立公文書館で小林茂



写真1 アメリカ議会図書館、地理・地図部での目録用カード作成作業

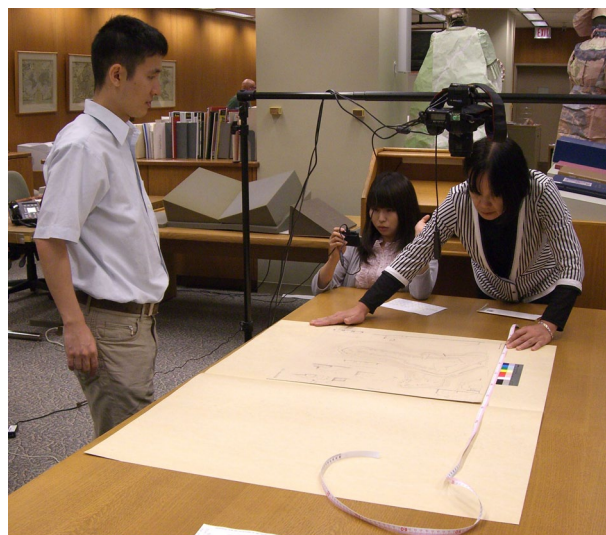


写真2 アメリカ議会図書館、地理・地図部での写真撮影作業

は「亜細亜東部輿地図」など初期編集外邦図の調査をおこなった。

- ③ 2010年10月9日（土）、国立国会図書館で小林茂は「直隸湾総図」など初期編集外邦図の調査をおこなった。
- ④ 2010年10月22日（金）、国立公文書館で小林茂は「陸軍上海地図」など初期編集外邦図の調査をおこなった。
- ⑤ 2010年11月12日（金）、『日本地政学の組織と活動』の原稿を、小林茂と鳴海邦匡が京都市山科区の故室賀信夫氏邸に持参し、遺族の室賀艶子氏にお見せするとともに、室賀信夫氏の戦中期の日記から、総合地理研究会関係の記事を抜

き書きした故室賀正氏のメモを拝見し、写真撮影させていただいた。また二階の室賀氏の書斎に、戦中期に室賀氏が寄稿した雑誌が相当量あるほか、室賀氏宛の葉書もかなり保存されていることを確認し、再度調査させていただくこととした。

- ⑥ 2010年11月25日(木)、国立国会図書館で、皇戦会から資金援助を受けて活動した仲小路彰の追悼文集などの閲覧をおこなった(小林茂)。
- ⑦ 2011年1月21日(金)、京都市左京区北白川の大島襄二関西学院大学名誉教授宅で、同教授より戦時期の総合地理研究会の主要メンバーとの関係について回想をうかがった(写真3)。またその後京都大学人間・環境学研究科の松田清教授と、室賀信夫氏の個人資料の現状および今後の取扱について懇談した(小林茂・鳴海邦匡)。
- ⑧ 2011年2月10日(木)、京都市山科区の室賀邸を、小林茂と鳴海邦匡は西山伸京都大学大学博物館准教授と訪問し、同邸に残されている故室賀信夫氏宛書簡、二階の書斎及び庭に設置された2棟の物置に置かれている雑誌類を拝見し、今後の資料調査方針等について、遺族の室賀艶子氏と話し合った(写真4)。



写真3 大島襄二先生



写真4 京都市山科区の室賀邸

#### (4)『日本地政学の組織と活動』の刊行

外邦図研究グループでは、すでに2005年に『終戦前後の参謀本部と陸地測量部：渡辺正氏所蔵資料集』を刊行し、第二次世界大戦中の参謀本部における戦時研究に際して形成された参謀本部関係者と地理学者の関係が、終戦後の外邦図の大学への持ち出しにつながったことを示した。類似の地理学者と軍人との関係は、京都大学地理学教室関係者の構成する「総合地理研究会」と陸軍高級将校、高嶋辰彦の組織した「皇戦会」との間にも見られ、その実態が注目されてきた。また外邦図との関係では、皇戦会を通じて総合地理研究会にこれが提供された可能性も考えられた。こうした観点から、京都大学文学部図書館に収蔵されることになった故室賀信夫氏(もと京大助教授)の個人資料の調査をすすめ、このうち重要なものを選択して編集し、資料集として下記のような編者とタイトルで、2010年11月に刊行することとなった。

小林茂・鳴海邦匡・波江彰彦編『日本地政学の組織と活動：総合地理研究会と皇戦会』大阪大学文学部研究科人文地理学教室。(写真5)

なお、この資料集には、当時若手メンバーとして総合地理研究会の活動に参加した故村上次男氏(もと甲南大学教授)のインタビュー記録も収録した。以下、この目次を掲載する。

#### 目次

口絵写真

はしがき…小林 茂

本書の編集経過と構成について…小林 茂

#### I 解説編

総合地理研究会(吉田の会)の組織と活動—室賀資料ならびに村上次男氏の証言の理解にむけて—  
…小林 茂・鳴海邦匡

皇戦会と「吉田の会」—高嶋辰彦の活動を通して—  
…田中宏巳

#### II 資料編

凡例…鳴海邦匡・波江彰彦・小林茂

室賀資料における総合地理研究会関係資料目録  
戦争経済遂行上より観たる資源を中心とする研



究—タイ國…室賀信夫  
 世界地理戦—修理固成せらるべき地理—  
 …川上健三  
 履歴資料〔小牧實繁による文部省在外研究員の推  
 薦状〕  
 総合地理研究会の活動に関わる書簡集  
 III 附録  
 村上次男氏（1911-2002年）のインタビュー記録  
 —「吉田の会」の活動について—  
 あとがき…小林 茂

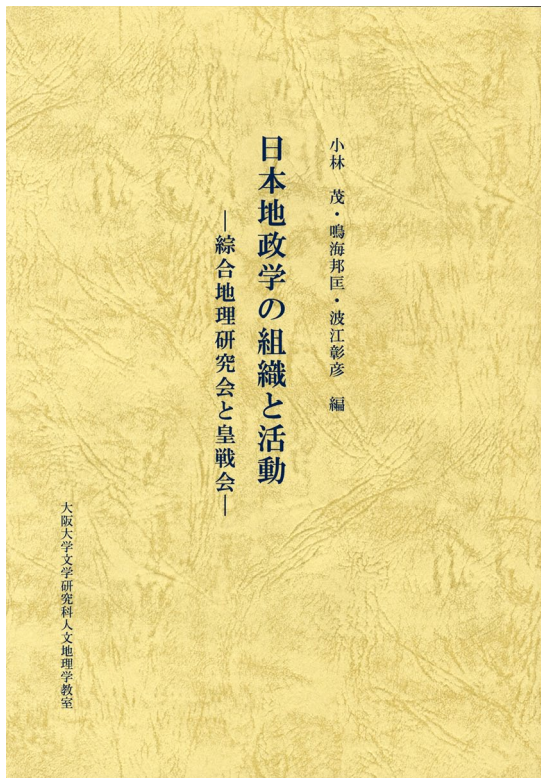


写真5 『日本地政学の組織と活動』の表紙

(5) 中国広州市、中山大学の保継剛教授一行への東北大学所蔵外邦図の紹介

2010年11月8日（月）、The 5<sup>th</sup> Japan-Korea-China Joint Conference on Geography 出席のために仙台に來訪した中国広州市、中山大学の保継剛教授（旅遊学院院长）、劉云剛副教授（地理科学与規劃学院）、さらに現在筑波大学生命環境科学研究科に博士特別研究員として留学中の金玉実氏を、昼休みに東北大学理学研究科に案内し、東北大学所蔵外邦図を紹介した（写真6）。



写真6 東北大学で外邦図を視察した保教授（左）、劉副教授（中右）、金氏（右）。中左は案内の関根良平氏（東北大学）。

(6) 人間文化機構研究資源共有化事業委員会が主催する「人間文化研究情報資源共有化研究会」へ参加

2009年7月の「人間文化研究情報資源共有化研究会」の第2回研究集会で、小林茂・山本健太が「外邦図研究と外邦図デジタルアーカイブの構築」と題する発表をおこなって以後、同研究集会に参加してきた。「人文系諸分野に於ける研究情報資源の公開と連携」をテーマとする第4回研究集会（2010年9月10日〔金〕、国立国語研究所）に山本健太が出席した。また「人間文化研究情報資源と知識ベース」をテーマとする第5回研究集会（2011年1月28日〔金〕、国立民族学博物館）に小林茂が出席した。

(7) 「地域研究資源共有化データベース（CIASシステム）」と外邦図デジタルアーカイブとの関係に関する協議

2010年2月28日（月）に、京都大学稲盛財団記念館で、柴山守氏（京都大）・原正一郎氏（京都大）・関野樹氏（地球研）が開発にあたってきた「地域研究資源共有化データベース（CIASシステム）」と「外邦図デジタルアーカイブ」との関係をめぐる協議をおこなった。外邦図研究グループからは、小林茂・宮澤仁・山本健太が出席した。また地図データベースのメタデータのあり方を研究している平松晃一氏

(名古屋大・大学院生)もあわせて参加した。柴山・原・関野3氏の開発してきた CIAS システム (これについては、原正一郎 2009.「地域研究のための資源共有化システムとメタデータに関する研究」東南アジア研究 46(4)を参照。http://ci.nii.ac.jp/naid/110007364560 で閲覧可) では、将来は地図に関するデータベースもその傘下に組み込んでいくことが構想されている。それにむけて、大きなコンテンツとなっている外邦図デジタルアーカイブのメタデータを組み込みたいという希望が表明され、その可能性を検討するために、この協議がおこなわれた。はじめに原氏より CIAS システムの概要に関する説明をうけたあと、平松氏から既存の地域資料のメタデータとその問題点、さらに望ましい地図のメタデータについて紹介があった。説明を受けつつ、外邦図デジタルアーカイブの課題、CIAS システムの現状、さらに地図のメタデータ整備への留意点などについて見解を交換した。また、宮澤・山本より、外邦図デジタルアーカイブ構築に際してのメタデータ整備の経験も紹介した。なお、当面は原氏に東北大・京大・お茶大の外邦図目録を送付すること、ならびに外邦図デジタルアーカイブのメタデータのサンプルを提供することとした(写真7)。



写真7 原氏より説明を受ける。左側は手前より原氏、関根氏、平松氏。

#### (8) 『研究蒐録地図』の解説執筆

高木菊三郎著・藤原彰解説 1992.『外邦兵要地図整備誌』、小林茂解説 2008-9.『外邦測量沿革史草稿』

と外邦図に関する基本資料のリプリントを刊行してきた不二出版は、一昨年来、第二次世界大戦中に陸地測量部が刊行した準秘密雑誌『研究蒐録地図』のリプリントを刊行する予定で準備をすすめ、その解説文の執筆について小林茂に打診した。小林はすでにこの雑誌の調査をおこなっていた渡辺理絵とともにこれにあたり、2011年1月末に原稿を提出したところ、2月にその第1巻が刊行された。この雑誌は、戦線の拡大にともなって、アジア太平洋の各地に分散して地図作製に従事した陸地測量部の技術者に各種情報を提供するとともに、各地からの報告を掲載するもので、この時期の外邦図の作製だけでなく、欧米植民地政府による当該地域の地図作製、さらには日露戦争時の臨時測図部による地図作製などに関する重要資料を掲載している。今後外邦図や測量史に関心をもつ研究者・市民にひろく参照されることが望まれる(写真8)。



写真8 『研究集録地図』第1冊

#### (9) 学会発表および講演

①2010年6月20日(日)、6月27日(日)、7月4日(日)に大阪大学中之島センターで開かれた懐徳堂記念会(事務局:大阪大学文学研究科)の古典講座集中コースで、小林茂が「地図から読む近代日本の対アジア太平洋関係:外邦図研究の現場から」と題する講演をおこなった。参加者は10名程度と少なかったが、聴講者とテーマをめぐってコミュニケーションできた(写真9)。





写真9 資料を示しながら聴講者に説明

②2010年9月11日(土)、渋谷区大向区民会館で開かれた東京古地図倶楽部9月度例会で、渡辺理絵・山近久美子が「アメリカ議会図書館所蔵の初期外邦図にみる日本軍将校の地図作製」と題する発表をおこなった。清水靖夫氏・長岡正利氏・鈴木純子氏・山下和正氏など外邦図に関心をよせてこられた方々に、1880年代に日本軍将校が朝鮮半島と中国大陸での簡易測量により作製した手描き原図を紹介するとともに、彼らの測量作業について検討した。

③2010年9月11日(土)、国際日本文化研究センターで開かれたシンポジウム「日本の歴史的時空間情報の現在」で、波江彰彦が、中西和子氏(日文研)・相田満氏(国文研)・出田和久氏(奈良女子大)の報告に対して外邦図研究の立場からコメントを行った(本誌46頁以下を参照)。

④2010年10月3日(日)、名古屋大学で開かれた日本地理学会秋学期学術大会で開催されたシンポジウム「アジアにおける近代初期の地理資料発掘・利用による環境変化研究」(オーガナイザー:松本淳[首都大]・小林茂[大阪大])で、つぎの発表をおこなった(写真10、写真11)(本誌51頁以下を参照)。

(1) 松本淳・小林茂「シンポジウム、アジアにおける近代地理資料発掘・利用による環境変化研究:趣旨説明」

(2) 小林茂・多田元信・林香絵・波江彰彦「外邦図を利用したアジア太平洋地域の環境変化研究の可能性」

(3) J.T. スリスマンティヨ・L. バユアジ・建石隆太郎「長期間環境空間情報データベースの



写真10 バユアジ氏の発表



写真11 シンポジウム参加者

構築」

(4) 山本晴彦「日本および中国における気象観測記録のデータベース化と気候変動解析」

なお、本シンポジウムは、2008～2010年度科学研究費、基盤研究(A)「データレスキューによる20世紀におけるアジアモンスーン気候の復元」の代表者、松本淳氏(首都大学)と話し合ううち、本研究(2007～2009年度科学研究費、基盤研究[A]「アジア太平洋地域の環境モニタリングにむけた地図・空中写真・気象観測資料の集成」と視点が類似することに気づき企画されたもので、安成哲三氏(名古屋大)など、延べ40名程の関係者の参加を得た。

⑤2010年10月23日(土)、日本大学文理学部で開かれた「大学における地理教育の現状と将来動向」研究集会で、小林茂が「古地図から地球環境問題へのアプローチを試みる—外邦図と旧版地形図の研究をふまえて」と題する発表をおこなった。

⑥2010年11月8日(月)、東北大学片平キャンパス

さくらホールでおこなわれた The 5<sup>th</sup> Japan-Korea-China Joint Conference on Geography の History のセッションで、下記の発表をおこなった(本誌 55 頁以下を参照)。

Kobayashi, S. and Watanabe, R. 'Chinese military students at the Training School of the Japanese Land Survey Department, 1904-1911'.

- ⑦2010 年 11 月 20 日(日)、奈良教育大学で開催された人文地理学会大会で、山近久美子・渡辺理絵・波江彰彦・鈴木涼子・小林茂が「1900 年代ロシア、ドイツ作製中国地図と外邦図—アメリカ議会図書館所蔵地図の検討」と題する発表をおこなった(写真 12)(本誌 60-61 頁を参照)。



写真 12 山近氏の発表

#### (10) 2010 年度に刊行された外邦図関係論文など

- ① 小林茂・渡辺理絵・山近久美子 2010. 初期外邦測量の展開と日清戦争. 史林(史学研究会) 93(4): 473-505.
- ② Kobayashi, S., Watanabe, R. and Narumi, K. 2010. Japanese colonial cartography in Taiwan, Korea and Kwantung Province, 1895-1924. Kinda, A., Komeie, T., Minamide, S., Mizoguchi, T. and Uesugi, K. eds. *Proceedings of the 14<sup>th</sup> International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University Press, 83-84.
- ③ Yamachika, K., Watanabe, R. and Kobayashi, S. 2010. The route maps of the Korean Peninsula drawn by Japanese army officers

during 1880s. Kinda, A., Komeie, T., Minamide, S., Mizoguchi, T. and Uesugi, K. eds. *Proceedings of the 14<sup>th</sup> International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University Press, 307-308.

- ④ Kobayashi, S. and Watanabe, R. 2010. Chinese military students at the Training School of the Japanese Land Survey Department, 1904-1911. *The 5<sup>th</sup> Japan-Korea-China Joint Conference on Geography*, 153-154.
- ⑤ 小林茂 2010. 日本の旧植民地における土地調査事業と地図作製③. 『2009 三菱財団研究・事業報告書, CD-ROM』三菱財団, No. 68, 4p.
- ⑥ 小林茂・岡田郷子・渡辺理絵 2010. 東アジア地域に関する初期外邦図の編集と刊行. 待兼山論叢日本学篇(大阪大学文学研究科) 44: 1-32.
- ⑦ 小林茂・渡辺理絵 2011. 解説. 小林茂・渡辺理絵解説『研究蒐録 地図、第 1 巻』不二出版 1-11.

その他、韓国の誠信女子大学の Yang Bokyung 氏および Yang Yunjung 氏は下記の論文を発表した。

Yang Bokyung and Yang Yunjung 2010. The Korea-related maps of the US Library of Congress. Kinda, A., Komeie, T., Minamide, S., Mizoguchi, T. and Uesugi, K. eds. *Proceedings of the 14<sup>th</sup> International Conference of Historical Geographers*, Kyoto University Press, 224-225.

Yang Yunjung 2010. *Research on the Late 19<sup>th</sup> Century Secret Military Maps of Korea in the US Library of Congress*. Doctoral Thesis of Sunshin Women's University, Korea.

(文責: 小林茂・波江彰彦)